

1. 3年次研修日程表

研修員受入期間：平成22年6月12日-17日（6日間）

研修員：ソンポン先生、カムスック先生、セタスタッフ2名

H22.6.12(土)	21:45	ビエンチャン→ 22:50 バンコク (TG575)
H22.6.13(日)	22:35	08:10 バンコク → 16:30 成田(JL708)、19:25 成田 → 22:35 沖縄(JL3095)、50周年記念会館 チェックイン
H22.6.14(月)	8:00 9:00 15:00 18:30	ホテル出発 病院長・医学部長表敬訪問（9:45 総務課前に集合）、琉球大学附属病院 外来・病棟見学 沖縄タイムス、琉球新報訪問 医局主催：医局員との交流会（ゼミ室）
H22.6.15(火)	8:30 9:00 11:00 15:00	ホテル出発 沖縄歯科衛生士学校見学 浦添総合病院・歯科口腔外科見学 開業歯科見学：たけしま歯科・小児歯科
H22.6.16(水)	8:00 8:45 13:30	ホテル出発 興南中学校歯科検診見学 3歳児健康診査見学：浦添市保健相談センター、担当歯科医師：根間昌樹先生（ねま歯科医院）
H22.6.17(木)	8:00 10:30 13:30 17:00	ホテル出発 開業歯科見学：たかみね歯科クリニック 1歳6ヶ月児健康診査見学：浦添市保健相談センター 担当歯科医師：比嘉洋子（ひろこ）先生（くばがわ小児歯科） 報告会 沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター理事との交流夕食会
H22.6.18(金)	9:00 10:00 午後	ホテル出発 JICA沖縄事務所訪問 沖縄観光
H22.6.19(土)	9:00	ホテル出発 11:25 沖縄 → 14:00成田(JL3098)、18:05 成田 → 22:40 バンコク(JL707)
H22.6.20(日)	8:00	11:45 バンコク→ 12:55 ビエンチャン (TG570)

琉球大学附属病院見学



沖縄タイムス、琉球新報訪問



平成22年6月14日(月)

表敬訪問

琉球大学医学部長
琉球大学医学部附属病院長



ラオス研修医受け入れ【琉球新報】



平成22年6月16日

興南中学校歯科検診見学



学校歯科検診を学ぶラオス歯科医師 【沖縄タイムス】

沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターが、国際協力機構(JICA)と進める草の根支援プロジェクト「ラオス国児童に対する歯磨き指導による口腔清掃状態改善事業」の一環で、研修員3人がラオスから訪れている。帰国後は定期的な歯科検診や虫歯予防に力を入れたいと意気込んだ。



3歳児健康診査見学：浦添市保健相談センター



平成22年6月15日

沖縄歯科衛生士学校見学



現在、ラオス国には歯科衛生士という職業はなく、今後ラオス国においても歯科衛生の職業が必要となってくる。

開業歯科見学：たけしま歯科・小児歯科



ラオス国には、現在小児歯科がなく、実際、低学年の歯科治療は難しいとの意見があった。そこで以前から小児歯科専門の開業歯科を見学したいとの希望があり、今回、小児歯科を専門とするラオス国口唇口蓋裂支援センター会員の先生の歯科診療所を見学した。

2. 3年次専門家派遣報告書

第5回専門家派遣日程：平成22年5月9日～5月15日（日間）

専門家氏名：砂川 元、高嶺明彦、大久保潔重、仲宗根 敏幸、嵩元 裕之、トンサヴァン、棚田美香

H22. 5. 9(日)	7:15 沖縄 → 8:50 福岡(NH480) 11:40 福岡 → 15:35 バンコク(TG649) 19:55 バンコク → 21:05 ビエンチャン(TG574)	DayInnHotel
H22. 5. 10(月)	8:30 スタッフ検診打ち合わせ（ミーティング） 表敬訪問 教育省、保健省、ラオス国立大学、ラオス国立健康科学大学、セタティラート病院長、ラオス国立大学附属小学校、ラオス JICA 事務所、歯科検診事前打合せ 夕食会（官房長官、教育省副大臣、保健省大臣、日本大使館、ラオス国立大学学長、ラオス国立健康科学大学学長）、セタティラート病院長、セタティラート病院長歯科部長、通訳2人）	
H22. 5. 11(火)	8:30 スタッフ検診打ち合わせ（ミーティング） 9:00 歯ブラシ・歯磨剤贈呈式 ドンコイ小学校教員、児童、家族への説明会 レクチャー（むし歯の成り立ち、齲蝕予防など） 検診（約160人） TBI（歯垢染め出し、ブラッシング指導、フッ素洗口）、データ集計、 14:00 むし歯0児童表彰式 歯ブラシ・歯磨剤贈呈式・机・椅子贈呈式（報道関係者を呼ぶ） ノンハイ小学校教員、児童、家族への説明会 レクチャー（むし歯の成り立ち、齲蝕予防など） 検診（約160人） TBI（歯垢染め出し、ブラッシング指導、フッ素洗口）、データ集計、 むし歯0児童表彰式	

	21:50 ビエンチャン → 22:55 バンコク (TG575)、砂川教授	
H22. 5. 12(水)	8:30 スタッフ検診打ち合わせ (ミーティング) 9:00 ポンパオ小学校教員、児童、家族への説明会 レクチャー (むし歯の成り立ち、齲蝕予防など) 検診 (約 150 人) TBI (歯垢染め出し、ブラッシング指導、フッ素洗口)、データ集計、 むし歯 0 児童表彰式 01:00 バンコク → 8:00 福岡 (TG648) 砂川教授 10:40 福岡 → 12:20 沖縄 (NH485)	
H22. 5. 13(木)	8:30 スタッフ検診打ち合わせ (ミーティング) 9:00 検診 (約 500 人) ラオス国立大学附属小学校 デンタルフェスティバル、	
H22. 5. 14(金)	歯科スタッフ最終ミーティング、報告会 ラオス JICA 事務所訪問 21:50 ビエンチャン → 22:55 バンコク (TG575)	
H22. 5. 15(土)	01:00 バンコク → 8:00 福岡 (TG648) 10:40 福岡 → 12:20 沖縄 (NH485)	

スタッフミーティング 5月10日 (月) セタ病院歯科室



砂川教授、高嶺会長の挨拶



大久保先生の挨拶



ソンポン歯科部長の挨拶



ラオスの日本大使館 ラオス国立大学学長表敬訪問



歯科医療の大切さと、Next Projectの相談

5月11日（火）ドンコイ小学校検診



砂川教授、大久保先生、高嶺会長の挨拶 今日一日の流れを説明













第6回専門家派遣日程：平成23年2月16日～2月24日（7日間）

専門家氏名：高嶺明彦、仲宗根敏幸、澤田茂樹、佐々木力丸、坂本安繁、鶴崎芳光、
トンサヴァン フォナポン、比嘉里沙

H23. 2. 16(水)	6:15 那覇空港 JAL カウンター（3階）集合 7:15 沖縄 → 8:50 福岡(NH480)、11:40 福岡 → 15:35 バンコク(TG649) 19:55 バンコク → 21:05 ビエンチャン(TG574)、ホテル（チェックイン後 ミーティング）	宿泊先
H23. 2. 17(木)	8:00 ホテル出発 8:30 スタッフ検診打ち合わせ、ラオス国立大学附属小学校 9:00 表敬訪問：10:00 ラオス国立大学→14:00 官房長官→15:00 ラオス JICA 事務所（高嶺明彦、仲宗根、ソンポン、比嘉、パイペット） 9:00 ラオス国立大学附属小学校検診（約600人）、検診隊長：澤田、トンサバン、データ集計	DayInnHotel
H23. 2. 18(金)	8:00 ホテル出発 8:30 スタッフ検診打ち合わせ（ミーティング）ポンパオ小学校 9:00 歯ブラシ・歯磨剤贈呈式、ポンパオ小学校教員、児童、家族への説明会（むし歯の成り立ち、齲蝕予防など）担当：トンサバン 検診（約150人）、TBI（歯垢染め出し、ブラッシング指導、フッ素洗口）、データ集計、むし歯0児童表彰式 14:00 歯ブラシ・歯磨剤贈呈式、ノンハイ小学校教員、児童、家族への説明会（むし歯の成り立ち、齲蝕予防など）担当：プバチャン 16:00 検診（約160人）、TBI（歯垢染め出し、ブラッシング指導、フッ素洗口）、データ集計、むし歯0児童表彰式 ラオス評価者ミーティング（セタ病院会議室）	
H23. 2. 19(土)	8:00 ホテル出発 9:00 デンタルフェスティバル（ラオス健康科学大学歯学部）、小学校児童・歯学部学生参加、地域住民に歯ブラシ配布、メディア（2社） 23:00 ビエンチャン(QV424) 沖縄 JICA：玉林、佐久間	

		ミーティング	
H23. 2. 20(日)	9:00 10:00	ホテル出発 最終評価（第1回）セタ病院（会議室） セタスタッフ（ソンポン・トンサヴァン・プバチャン）・小学校校長先生（カムスック）・健康科学大学（アカオ）・沖縄専門家スタッフ・沖縄 J I C A 最終評価（第1回）→修正 夕食会	
H23. 2. 21(月)	8:00 8:30 10:00	ホテル出発 スタッフ検診打ち合わせ（ミーティング）. 沖縄 J I C A 視察 歯ブラシ・歯磨剤贈呈式、ドンコイ小学校教員、児童、家族への説明会（むし歯の成り立ち、齲蝕予防など）（セタスタッフ） 検診（約 160 人）、TBI（歯垢染め出し、ブラッシング指導、フッ素洗口）、データ集計、むし歯 0 児童表彰式 最終評価（第2回） セタスタッフ（ソンポン・トンサヴァン・プバチャン）・小学校校長先生（カムスック）・健康科学大学（アカオ）・沖縄専門スタッフ・沖縄 J I C A 最終評価（第2回）→修正	
H23. 2. 22(火)	8:30 9:00 15:00	ホテル出発 最終評価 セタ病院（会議室） 最終評価（第3回） セタスタッフ（ソンポン・トンサヴァン・プバチャン）・小学校校長先生（カムスック）・健康科学大学（アカオ）・沖縄専門スタッフ・沖縄 J I C A 最終評価（第3回）→修正 ソンポン・高嶺会長・玉林課長とミニッツを結ぶ ラオス JICA 事務所訪問	
H23. 2. 23(水)	10:20 10:00	ビエンチャン(VN841) 沖縄 JICA : 玉林、佐久間 セタスタッフ最終ミーティング 21:50 ビエンチャン → 22:55 バンコク(TG575)	
H23. 2. 24(木)	01:00 11:20	バンコク → 8:00 福岡(TG648) 福岡 → 13:05 沖縄(NH487)	

2月16日(水)出発



参加者: 高嶺明彦、仲宗根敏幸、澤田茂樹、佐々木力丸、坂本安繁、鶴崎芳光、
トンサヴァンフオナボン、比嘉里沙(8人)

2月17日(木) スタッフミーティング ラオス国立附属小学校



高嶺会長の挨拶



仲宗根先生の挨拶



歯学部学生23人 セタスタッフ7人参加



検診を行うラオス健康科学大学歯学部学生



学生に指導を行うセタスタッフ

歯ブラシと歯磨き粉を手にする生徒





検診に参加してくれた歯学部学生と児童

表敬訪問

ラオス国立大学



ラオス国立大学副学長



ラオス国立大学医務室



チュアン官房長官



2月18日(金)ポンパオ学校検診



高嶺会長の挨拶



贈呈式



プバチャン先生によるレクチャー



検診を行う歯学部学生



ブラッシング指導を行う歯学部学生



むし歯「0」の児童表彰式



2月18日(金)むし歯予防勉強会(ノンハイ小学校)



トンサヴァン先生の講義



ドウアン先生の講義



他の先生は外では検診準備を行っている

ノンハイ小学校むし歯「0」の児童表彰式



2月19日(土)デンタルフェスティバル



ラオス健康科学大学歯学部



一万本の歯ブラシ



歯ブラシ・歯磨き粉・パンフレット



副学部長の挨拶



贈呈式



プロジェクトマネージャの挨拶



近隣の小学校父母・児童



ポンパバオ小学校教員・児童

2月20日(日)参加型合同評価風景



夕食会



ラオス国立大学学長・健康科学大学学長参加



ドンコイ小学校校長先生参加

2月21日(月)第2日目参加型合同評価風景



2月22日(火)第2日目参加型合同評価調印式



2月21日(月)ドンコイ小学校検診



ドンコイ小学校検診風景



むし歯「0」児童表彰式



2月22日(火)ラオスJICA最終報告



資料 6 沖縄発！国際協力セミナー資料

名称：沖縄発！国際協力セミナー
 日時：平成21年2月27日（金） 15:30～18:00
 場所：JICA沖縄 ニライホール3階 多目的室
 主催：沖縄県、JICA沖縄

JICA草の根技術支援事業
ラオス国児童に対する歯磨き指導
による口腔内清掃状態改善事業
 ～歯ブラシ一本から始まるお口の健康～

沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター
 仲宗根 敏幸、砂川 元、高嶺 明彦

沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターとは

沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターは、琉球大学医学部歯科口腔外科と開業歯科医が患者診療の問題点に関するコミュニケーションや学術錬磨を通して緊密な病診連携を図り、沖縄県内の歯科口腔外科疾患の診断と治療法の向上に資することで地域的、社会的役割を果たすとともに、患者に対して高度な診療技術の提供を可能にするために平成7年8月8日“沖縄歯科口腔外科学研究振興会（以下、振興会）”の名称で設立された。

その後、この団体は、これら沖縄県内における従来の活動から、東南アジア諸国、特に援助を必要としているラオスの口唇口蓋裂患者に対する支援と治療技術移転に活動の主体を移したことから、名称を“振興会”から“沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター”に変更した。

なぜラオスでの海外医療援助活動なのか？

（日本口唇口蓋裂協会）





案件の概要

国名:ラオス	案件名:ラオス国 児童に対する歯磨き指導による口腔内清掃状態改善事業 (歯ブラシ一本から始まるお口の健康)
分野:保健・医療	援助形態:草の根技術協力(支援型)
所轄部署: 沖縄国際センター	協力金額:10,000千円 口唇口蓋裂患者支援センター自費負担金額:1,277千円 他に顕微鏡93台、歯科治療ユニット6台、ノンハイ小学校への机・椅子30セット 琉球大学医学部からは研修医派遣費が負担されている(5人)
協力期間	2008.6.17 【ラオス国側実施機関】 セタイアワート病院歯科 2011.3.18 【日本国側協力機関】 沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター



協力内容

(1) 上位目標
 ドンコイ小学校での予防歯科指導体制確立がモデルとなり、ピエンチャン市シサトナーク郡の小学校、ノンハイ小学校及び地域住民等の関係者がより適切に予防歯科に取り組むようになる。

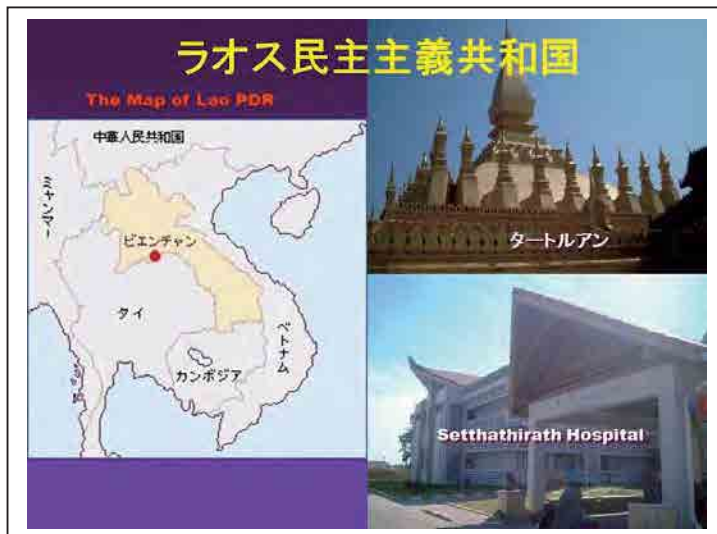
(2) プロジェクト目標
 ドンコイ小学校での予防歯科指導体制確立がモデルとなり、ポンババオ及びノンハイ小学校、地域住民等の関係者がより適切に予防歯科に取り組むようになる。

※ プロジェクトが対象者に伝えたいメッセージ: 「むし歯を適切に治療した上で、歯みがきによる予防歯科が必要である(予防歯科の正確な知識を認識して欲しい)」
 ※ プロジェクトスローガン: 「歯ブラシ一本から始まるお口の健康」

活動内容

1年目	2,3年目
<ul style="list-style-type: none"> ● ドンコイ小学校 むし歯治療 歯科検診 ブラッシング指導 児童、教職員、父母に対する「むし歯の成り立ち・予防」勉強会 ● セタティラート病院 予防歯科勉強会 カルテ管理 歯科検診手法手技の移転 診療能力向上、歯科の組織化・機能化 ● 住民対象の予防歯科勉強会 デンタルフェアをセタティラート病院にて行う ● 本国研修 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドンコイ・ノンハイ・ポンババオ小学校、 ラオス国立大学附属小学校(依頼) 歯科検診(セタスタッフへ移行) ブラッシング指導(セタスタッフへ移行) 児童、教職員、父母に対する「むし歯の成り立ち・予防」勉強会(セタスタッフへ移行) ● セタティラート病院 予防歯科勉強会、カルテ管理(セタスタッフへ移行) 歯学部学生の予防歯科指導実習が実施 歯科検診手法手技の移転 診療能力向上、歯科の組織化・機能化 ● 住民対象の予防歯科勉強会 デンタルフェアをセタティラート病院が別の場所でセタスタッフが主体となって行う ● 本国研修







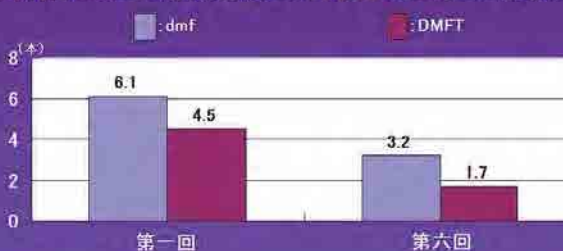
(3) 成果

- ① ドンコイ小学校において歯磨きによる予防歯科指導の実施体制が確立され、児童のう蝕罹患率が低下する。
- ② ボンババオ・ノンハイ小学校において、適切な歯の治療及び歯磨きによる予防歯科の必要性が認識され、適切に歯磨きが行われ、児童の歯のう蝕罹患率が悪化しない。
- ③ セタティラート病院歯科医師による患者の健康管理方法が改善され、歯科医師間の連携も図られる。
- ④ ラオス国立健康科学大学歯学部の実習内容が改善される。
- ⑤ 地域住民、特にデンタルフェアに来場した人の予防歯科の必要性にかかる認識が改善される。

- ① ドンコイ小学校において歯磨きによる予防歯科指導の実施体制が確立され、児童のう蝕罹患率が低下する。

指標：ドンコイ小学校での予防歯科関係者（校長、保健の先生、親、児童、セタティラート病院歯科医師、ラオス国立健康科学大学歯学部学生等）の予防歯科の必要性にかかる認識が高まり、歯の治療を行った児童のdmf(乳歯)・DMFT(永久歯)が3.0低下(維持)する。

dmf: 乳歯のむし歯経験指数、DMFT: 永久歯のむし歯経験指数



指標：児童の歯のPCRが30%以下になる。

歯垢染出し液で染めて



一緒に歯磨きをした



一緒に歯磨きをした



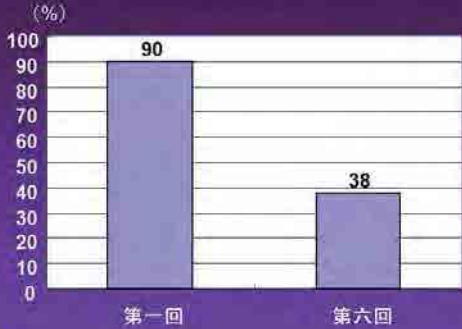
鎖をみなから



低学年生をブラッシングしてあげる高学年生



PCR(プラークコントロールレコード)



回数	PCR (%)
第一回	90
第六回	38

達成状況：
 ドンコイ小学校では、PCR(プラークコントロールレコード)においては、六回の検診及びTBI(ブラッシング指導)にて、第一回検診時PCR: 90%であったのが38%となり、明らかにPCRの低下が認められた。

指標：保健の先生が予防歯科の必要性を理解し、児童たちに対し独自に適切な歯磨き指導ができるようになる。

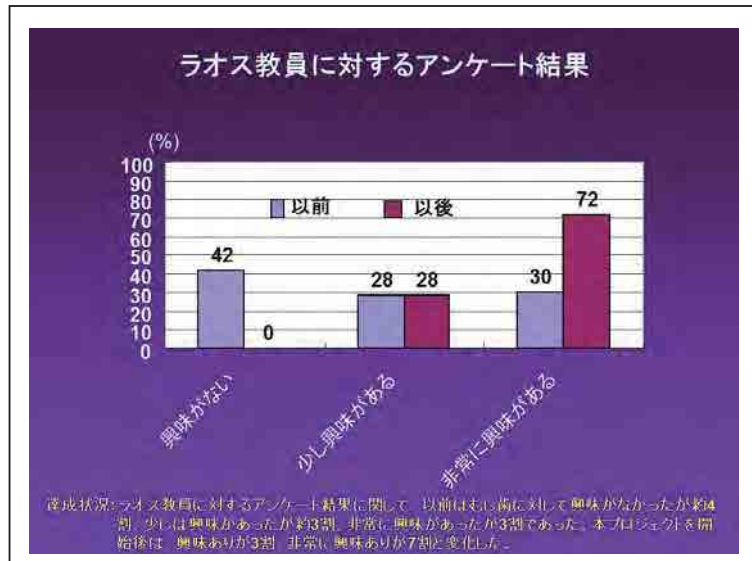
職員の積極的なブラッシング指導








達成状況：教員の歯科に対する知識や経験はほとんどなく、第一回検診時には、児童を誘導することしかできなかったが、第三回検診以降は、止境の保健の先生がいなかったため、教員が積極的に児童のTBIに参加し、個々の生徒に歯磨き指導を行うまでになっていた。



指標: 校長先生が学校歯科検診を含め予防歯科の必要性を理解する。

沖縄研修

琉球大学附属小学校歯科検診見学

1歳半検診見学

母親教室

小学校給食体験

達成状況: ラオスにおいては、もとより学校歯科検診のみならず学校保健制度が整っておらず、学校歯科検診がどう進めたいのか、予防歯科において何が重要か理解できていなかった。

第二回沖縄研修にて、琉球大学附属小学校の検診や1歳半・3歳児検診の見学を行い、予防歯科において学校での教育や関わりのみならず、児童生徒の親の協力、意識改革が必要だということを理解した。

2009年5月29日付けの琉球情報に「日本では親が子供の予防歯科に強い関心を持っている。ラオスでもまず親の意識改革から始めたい」と述べ、さらに再認識した。

指標: 児童の親が予防歯科の必要性を理解する。

達成状況:

ラオスにおける経済事情は苦しく、共働き家族が多い。そのため、日常生活を送るのに精一杯である。また、保護者の保健についての知識が乏しく、児童への配慮が欠けているのが現状である。

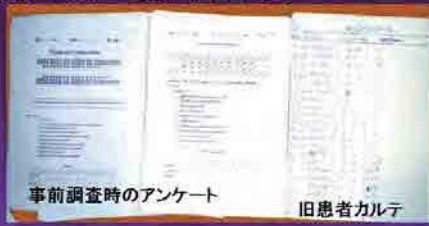
しかし、ドンコイ小学校第一回検診においては、保護者の参加が約50人あり、「むし歯のどきかたから予防までの勉強会」に参加していた。これまで、家庭における歯磨きが、一日一回から一日二回、三回へと変わってきている。これまで、児童の歯の痛みで困ることが多かったが、最近ではあまり心配が無くなくなったと言っている。

また日本の様に親が仕上げ磨きを行う段階までは達していないことから、「むし歯のどきかたから予防までの勉強会」に参加できない全ての保護者に対し「むし歯予防の大切さを理解してもらうために、「むし歯のどきかたから予防まで」のリーフレットを作成し配布している。今後、むし歯予防に対する父母の役割の大きさを伝えていかなければならない。

② ポンパパオ・ノンハイ小学校において、適切な歯の治療及び歯磨きによる予防歯科の必要性が認識され、適切に歯磨きが行われ、児童の歯のう蝕罹患率が悪化しない。



③ セタティラート病院歯科医師による患者の健康管理方法が改善され、歯科医師間の連携も図られる。



指標：患者のカルテが適切に作成され、管理される

現在のカルテ
経時的に1年生から6年生までの経過が見られるようになっている。

その結果



検診もスムーズ

達成状況

これまで、セタティラート病院歯科においては個々のカルテはなく、ノートに患者氏名、処置内容、治療料金が書かれているのみであった。そこで、ドンコイ、ポンパパオ、ノンハイ小学校児童、それぞれの経時的に見られるカルテを作成した。そのため、次年度に新たにカルテを作成することはなくなり、検診もスムーズに進むようになった。また、そのカルテをもとに統計を出すことが可能となった。

指標: セタティラート病院歯科医及び開業医が参加する勉強会が年に1～2回開催される。

開業医、歯科学生、教員への講義 セタ病院歯科スタッフとの勉強会



達成状況:
 これまで開かれた勉強会においてセタティラート病院医師・歯科医医師・看護師、ラオス国立健康科学大学教員・歯学部学生、ドンコイ、ボンババオ、ノンハイ小学校教員及び開業歯科医師を含め、延べ253人が参加した。

指標: セタティラート病院歯科医師が予防歯科指導の必要性を理解する。

第一回検診 第三回検診 第五回検診



むしろ予防の勉強会



これまでの「検診・外観研修」勉強会において予防歯科の必要性を理解するようになり、第一回検診では、沖縄・ラオス国口腔癌患者支援センター専門家による歯科検診・カルテ記載・ブラッシング指導・小学校教員・児童・父母に対する勉強会を行っていたが、第五回検診からは、全てセタスタッフに移行することができた。さらに、学校教員への指導、小学校児童に対するブラッシング指導、講義などもセタスタッフによって行われている。

④ ラオス国立健康科学大学歯学部の実習内容が改善される。

指標: 実習期間中に、セタティラート病院とラオス国立健康科学大学が連携し、学校現場で歯学部学生の予防歯科指導実習が実施される。

第四回 第五回 第六回



歯科検診参加した歯学部学生 歯学部学生を指導する専門家 学生を指導するラオス国立健康科学大学歯学部副学部長

達成状況: 第四回歯科検診は、ボランティアという形で歯学部学生9人、第五回歯科検診からはラオス国立健康科学大学歯学部助教授が予防歯科実習指導者として歯学部学生10人とともに参加した。また、第六回歯科検診では23人の歯学部学生が参加した。

⑤ 地域住民、特にデンタルフェアに来場した人の予防歯科の必要性にかかる認識が改善される。

指標：デンタルフェア来場者の予防歯科の必要性に係る認識が高まる。

検診結果報告 セタティラート病院で開催 虫歯の成り立ちを説明



達成状況：
 これまでデンタルフェスティバルは、セタティラート病院受付待合広場にて行ってきた。「むし歯のでき方からむし歯予防まで」、第一回検診から第五回検診風景及び検診結果のポスター展示と歯ブラシの配布を行ってきた。第一回目は通りすぎる人たちが多かったが、最近ではポスターを見ながら質問する人も見受けられるようになってきた。

一般市民に対するアンケート結果(100人)

むし歯予防に興味がありますか？

興味度	以前	以後
興味がない	54	0
少し興味がある	28	21
非常に興味がある	18	79

このようなイベントをやって欲しいですか？

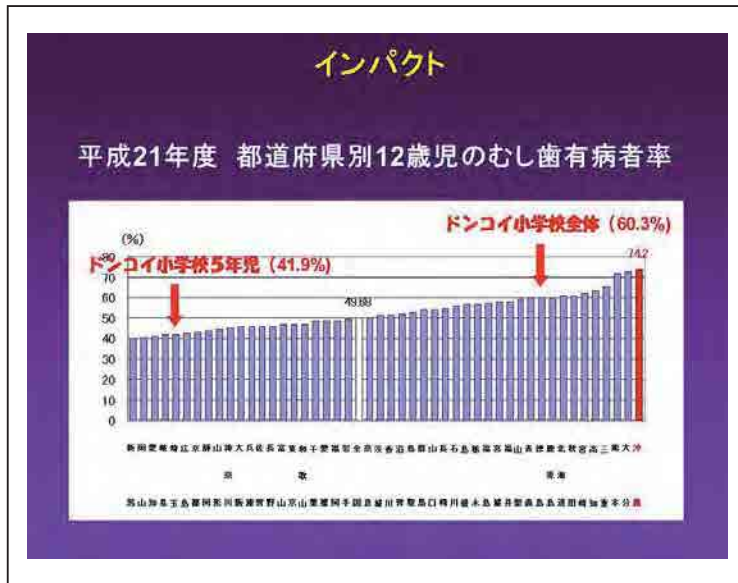
希望度	数
どっちでも良い	9
やって欲しい	91

達成状況
 以前はむし歯に対して興味がなかったが約5割、少しは興味があったが約3割、非常に興味があったが2割であった。今回のデンタルフェスティバル参加後は、興味ありが2割、非常に興味ありが8割と変化した。今後も、このような予防歯科イベントを開催して欲しいが9割であった。

指標：デンタルフェアの来場者が増加する。



達成状況
 第一回から第五回までの合計来場者数は250人、平均50人であった。会場はセタティラート病院受付待合広場で行ったので来場者数に限りがあった。第六回デンタルフェスティバルは、ラオス国立大学健康科学大学歯学部構内で開催し、来場者が述べ700人を越えた。フェスティバルでは歯科相談を実施し、啓発パンフレット1000部と歯ブラシ8700本も配布した。





教訓

本プロジェクトでは、沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターとセタティラート病院歯科部のみならず、小学校児童から学校教員さらには保護者、地域住民へと広がっていった。さらに、プロジェクトに賛同した、沖縄は琉球大学や大正製薬の効果的な協力関係、ラオスはラオス国立健康科学大学などを巻き込むことによって効果的な協力が築かれた。このような連携が可能となった一因としては、プロジェクトが観念的な議論に終始するのではなく、「現場レベルでの目に見える成果・目標」を設定し、それに向けて関係者間の調整を図ったことが挙げられる。現場レベルでの具体的な目標設定と協力体制の構築は、以前からわれわれ沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターがラオス国に対する医療援助、技術移転、学術交流を地道に行ってきたことが本プロジェクトによって実証された。

今後のあり方

「ドンコイ小学校をモデル校」とし、さらに隣接する学校へ予防歯科・学校歯科保健の概念を普及・啓発・拡大していく必要がある。つまり、ラオスの学校保健における“学校”の位置づけが、寄生虫コントロールの場所から、「歯ブラシ1本からはじまる・・・」地域の健康増進活動の拠点として変化し、HPS (Health-Promoting Schools) の概念が共通認識されるようにならなければならない。

さらに上位目標に近づけるためには、小学校レベルから予防歯科・学校歯科保健の概念を普及・拡大を継続させながら、地域レベル→県レベル→国家レベルへとボトムアップを図る必要もある。